

2017Japan National Team Report ” コーチ ”



報告者氏名	前田 博志
大会名	2017 OPTIMIST EUROPEAN CHAMPIONSHIP
開催地	ブルガリア共和国 ブルガス
大会期間	7/30 ~ 8/6

- 帰国後1ヶ月以内に、JODA チームでまとめた上、海外派遣担当までメールにて送付して下さい
- JODA 理事会にて確認の後、ホームページに公開します
- 記入時の注意点
 1. このレポートは今後海外派遣レースに参加する選手、役員また日本のジュニアのための資料です
 2. なるべく客観的な立場から、詳細に記入して下さい
 3. 大会本部や運営、他国や他国選手また特定の個人を批判するような記述はしないで下さい
- 写真資料について
 1. このレポートを補足する資料として必要です(文中に貼り付けて下さい)
 2. 他国OP艇を接近して撮影する際には、必ず相手国の選手、コーチの了解をとって下さい

チャーター艇 メーカー	Blue Blue	OPTIMAX			
----------------	-----------	---------	--	--	--

気象について	大会期間中を通して雨は一度も降らず、ほぼ快晴であった。日中は 30° C を超え、日差しは日本より強いように感じた。乾燥しているためか、日蔭に入ると過ごしやすい。
海面(湖面)の特徴や 風の傾向	毎日日中は気温が上がるため、典型的なシーブリーズ(6~7ms の風、前半はもう少し強い)が入った。 風向は 80° ~100° で安定し、振れの周期は長かった。 波は大きく、フリーでは容易にサーフィングが可能であった。
帆走指示書内容で特記 事項	特になし。
コーチボートについて	ベルギーチームが持参したボートをシェアした。ベルギーの考え方が日本に近く、非常にやり易かった。 途中で(1stエントリー支払後)、ベルギーチームとボートをシェアすることに決めたため、事前に JODA より大会側に支払っていた 325 ユーロは返却してもらえなかった。大会会場にはボートの受け渡しをする人のみで、責任者と交渉できなかった。

以下、日本チームより上位の選手、国について記入して下さい

選手の特徴、体格	比較的体の大きい選手が多かった。(日本チームは小さい方であった。)
機装品について	特になし。 各国で様々なメーカーのセールを使用していた。
セッティング等	特になし。
海上での練習方法	各国単独では、セーリング練習、ゲートスタートからのレース練習を行っていた。 また、全体で集まって、合同でのレース練習を行っていた。(50～70 艇) ゼネリコを繰り返すので、日本とベルギーチームは途中より2チームのみでの練習に切り替えた。
セーリング技術	上位の選手は、波に合わせて、体を上手く使ってセーリングしていた。
戦術、戦略など	コースが長く、また振れの周期が長かったため、タックは少なめで長い距離を走っていた。
日本選手が劣っていること	強い風、波のある中でのボートスピード。(クローズホールド) また、風が少し落ちた時には、日本選手も十分に競り合っていた。
日本選手が勝っていること	素直。悪ふざけをしない。 コーチのアドバイスをよく聞き、それをレースで実践する素直さがあった。その結果、レース後半ではみんな成長が見られた。ホテルやレース会場(陸上)で、時間厳守や体調管理がきちっとできていた。選手に浮ついたところはなく、海上だけでなく陸上も含めて全力でレースに取り組んでいたと思う。
日本チームとしての課題	海外でのレース経験不足。(“厚かましき”の不足) 今回の選手は海外レースが初めてであったこともあり、レースの序盤では戸惑いがあった。海外選手は自己主張が強く、遠慮することがない。日本選手にはこれに対抗できる厚かましき(図太さ)が必要であるが、それがなかなか理解できなかった。
JODA への要望	NT 合宿での意見交換会がよかった。引き続き実施をお願いします。
その他	サポーターの宿泊をアパートにしたことで、選手は食事・洗濯等で様々なサポートが得られた。大会より配られたランチは選手の口に合わず、代わりにおにぎりを持って海に出た。ホテルの食事に飽きた時にもアパートでカレーを食べたりして、選手は本当にリラックスができた。

ご協力ありがとうございました

JODA 海外派遣委員会